

風疹が大流行！！ ～ご自身と大切な方を守るために

2018年8月頃から首都圏で風疹患者が急増しています。新聞やテレビ等の報道を耳にし、不安を感じている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。



国立感染症研究所 感染症疫学センターは2018年8月21日、首都圏の風疹患者急増を受け、警鐘として緊急情報を発表しました。これによると、2018年8月15日付の風疹患者累積報告数は139人というかつてない数字です。そして9月4日の発表では273人(2018年8月29日付)とさらに激増しています。8/21以降、国立感染症研究所は1週間単位での患者数を発表していますが、発表のたびに数十人規模で患者が急増しています。これは国内で大流行した2012～2013年以来の猛威です。

●風疹とはどんな病気？

一般的に『三日はしか』と呼ばれ、風疹ウイルスによっておこる急性の発疹性感染症です。風疹ウイルスは患者さんの咳や鼻水などを介する飛沫感染によってうつり、主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。

ウイルスに感染しても明らかな症状がでることがないまま免疫(抗体)ができてしまう人もいます。風疹は一度かかると、大部分の人は生涯風疹にかかることはありません。

しかし、妊婦の方(特に妊娠20週頃までの妊娠初期)が風疹にかかると、その胎児も風疹ウイルスに感染します。すると、先天性風疹症候群という障がいをもつ可能性が生じます。その障がいは難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等としてあらわれます。

●どうやって防ぐの？

風疹の予防接種をうけましょう。

女性は妊娠前に2回(子どもの頃も含めて)の予防接種を受けることによって、妊娠中に風疹にかかることを予防します。(ただし妊娠中は風疹の予防接種を受けることはできません)

男性ももちろん、予防接種を受けてください。これはご自身だけではなく、周りの女性に対する配慮でもあります。

罹患すれば、子どもであれば、妊娠中のお母さんなどにうつしてしまうことがあります。また、大人であれば、妊娠中の配偶者(妻)あるいはパートナー、職場の同僚などにうつしてしまう可能性があります。

風疹の予防接種を行う主な目的はふたつあります。

ひとつは、風疹による合併症の予防をし、罹患しても重症にならないようにするためです。

もうひとつは前述の通り、生まれてくる赤ちゃんを先天性風疹症候群の障がいをもつことのないようにすることです。

このように、予防接種はご自身を風疹から守るだけではありません。他の人に風疹をうつすことが少なくなれば、社会全体を風疹から守ることができるのです。

ぜひとも、風疹の予防接種をご検討ください。

【参考：国立感染症研究所ホームページ】
みつわ台総合病院 検査科